

第 3 回
ハラスメント防止研修会報告書

恵庭市議会

令和 6 年 6 月 23 日

第 3 回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	長谷文子
【研修会の概要】 人間啓発ビデオ「ハラスメント；職場からつくる人権尊重社会」視聴後、議員 21 名が 4 グループに分かれ ①ハラスメントについて心がけていること ②不愉快と感ずること ③ハラスメント抑止力を高めるための対策 について、ワークショップを実施し意見を出した。	
【研修会所見】 ビデオの内容は会社内でのハラスメントがほとんどで、私たちとは状況が異なるため、参考とするところは少なかったように思われたが、ワークショップでは議員それぞれの考えがわかり、有意義であった。上記の 3 項目に対する主な意見は下記の通り ①相手の気持ちを考えて話す・コミュニケーションを心がける・嫌なことははっきり言う ②無視される・大声を出される・話を最後まで聞かない・一方的な指導・「男だから」「女だから」と言ったことによる差別・威圧的な態度や言葉 ③普段からコミュニケーションを図る・研修会の開催・罰則の強化・ため込まない など、 日頃からの人間関係の構築に務めることが大切。また、本人が気付かないうちに相手に不快感やハラスメントと捉えられる態度を取っている場合がある。	

ハラスメントと思われる態度をとられた場合は、相手に気付いてもらうことが必要だが、言葉ではっきり伝えることは一番の伝達方法で、最大の予防策だと思う。自らの日頃の行動をチェックする必要性を感じた研修会だった。

令和6年6月15日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	川原 光男
【研修会の概要】 1 ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況について報告 2 ハラスメントビデオ鑑賞 人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」 3 ワークショップ形式による検討会 4 グループに分かれて、テーマ1「自分がハラスメントについて心掛けて いる事について、また、不愉快だなと感じるハラスメントについて」、テーマ 2「ハラスメントの抑止力を高めるための対応」についてグループ討議し、 グループごとに成果発表 4 全体討議による意見交換	
【研修会所見】 ハラスメントビデオ鑑賞により理解は出来ていますが、改めてこのような事例を鑑賞することで自分への戒めを蓄積できることは重要なことと感じました。 ワークショップ形式によるテーマについて話し合い提示することはよりハラスメント行為について理解が深まり、自分自身へのチェック機能が働いたと感じました。 特に重要だと感じたことは、ハラスメントの抑止力を高めていくにはこのような講習会や研修会を持続させていくことが大切と私自身も感じましたし他のグループからも同意見の発表がありました。 引き続きのこのような研修会の開催を望むものです。	

令和6年6月30日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	翡翠会 三上 まどか
【研修会の概要】 ① ハラスメント根絶委員会の検討事項の進捗状況説明 ② ハラスメントビデオ鑑賞【人権啓発ビデオ～職場からつくる人権尊重社会】 ③ ワークショップ形式による検討会 ・ 個人意見出し ・ グループディスカッション ・ 各グループの成果発表 ・ 全体討議による意見交換	
【研修会所見】 ① 委員会の検討事項についてはハラスメント根絶条例の見直しや行動指針について状況が確認できた。研修と意識変革については、回数を重ねることが重要と考える。定期的に内容を工夫し開催することで意識醸成が高まるので続けてほしい。ハラスメント事案が発生した場合の相談窓口の設置や対応協議については明確にし、認識を統一することが抑止力にもつながる。 ② 職場で発生するハラスメントの例を取り上げた場合、人権尊重という視点で受け入れることの大切さを改めて理解した。 ③ グループディスカッションを通して様々な意見を交換することが出来、大変有意義なワークだった。多様なハラスメントが取り上げられる昨今、自覚と認識が世代間によってギャップが生じるのはコミュニケーションの取り方の違いもあると考えるので次回はコミュニケーション力の観点から見るハラスメント研修を是非開催いただきたい。お疲れさまでした。	

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	矢野浩章
【研修会の概要】 今回のハラスメント研修会ではビデオ鑑賞とワークショップ形式での検討を実施した。 ビデオ鑑賞では人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場から作る人権尊重社会」を視聴しワークショップでは テーマ①：自分がハラスメントについて心掛けている事について また、不愉快だなと感じるハラスメントについて テーマ②：ハラスメントの抑止力を高めるための対応（対策）についての題材となった。まず約16分のビデオ鑑賞の後、4グループに分かれ個人でテーマ1とテーマ2についての思いを付箋に明記しグループ内で個人でその内容を発表し討議した後、それぞれのグループからの代表者が全体をまとめ発表する形で行われ様々な意見がありそれぞれの意見が可視化される形で確認できた。	
【研修会所見】 ビデオ鑑賞の内容は一言で言えば「昭和的」で一方的な相手を尊重しない業務上のパワーハラスメントの紹介であり、人権に配慮しない様々な事例を再確認することができた。 また、ワークショップでのグループ分けでは5～6人の少人数グループでのそれぞれの考えが解り、共通する点もあれば自分では気づかない意見もあるなど、貴重な時間となったと思う。その中でもテーマ①での題材として同意見で上がったことに「笑顔」の重要性、人間関係での表情の重要性が再確認したとも思う。 また、普段からのコミュニケーションの重要性も挙げられ、現代的なデジタルな関係よりアナログな人間関係の構築（食事会など）が意見として上がる事については参加者の年代を感じてしまった。別グループの意見としてサッカーのルールで用いられる「イエローカード・レッドカード」でハラスメントを意思表示する案が出たことについては面白い発想だと共感してしまった。 定期的なハラスメント研修会の重要性がハラスメント防止に役立つのは間違いないだろう。	

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	吉永 孝之
【研修会の概要】 1. ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況説明 2. ハラスメントビデオ鑑賞「人権啓発ビデオ」 3. ワークショップ形式による検討会 (1) グループ討議 (2) 発表	
【研修会所見】 この研修ではグループワークを導入し、個々人が考えるハラスメントに関する気を付く事と対策等をグループで意見交換をしました。研修を実施し、グループ員の各々が考えていることを年齢、階層を超えて価値観の共有が出来ました。世代間による考え方や感覚の違い（エイジギャップ）や男女による感覚の違い（ジェンダーギャップ）がコミュニケーションの齟齬につながるケースが多いため、「自分の感覚が当たり前ではない」という意識を常に求められます。ここをおろそかにすると、自分でも気づかないうちにハラスメントの行為者になってしまうこともあるため「昔は当たり前だった発言や行動だが、現代ではハラスメントに該当する可能性がある」と心に留めておく必要を強く感じた。	

令和 6 年 6 月 19 日

第 3 回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	早坂 政芳
【研修会の概要】 第 3 回ハラスメント研修会に参加し、様々なハラスメントに対する認識を深め、ハラスメント根絶への抑止力を高めるために、ワークショップ形式による検討会を実施した。 初めに、職場におけるハラスメントの現場の例のビデオを鑑賞 ・ 営業の成果が取れない部下に熱意が足りないと叱責する上司 ・ 明日の報告のために、徹夜してまとめるよう指導する先輩 続いて、ワークショップによる検討会 ・ 自分がハラスメントについて心がけていること ・ 不愉快だと感じるハラスメント ・ ハラスメントを抑止するための対策 各人が、考える様々なものを列挙し、その後整理統合してグループ毎の発表し、各人のハラスメントに対する認識を深め、他の人の意見を聞いた。 特に独特の意見に笑いが出たり、普段あまり交際のない、他会派の議員とも交流を深めることができた。	

【研修会所見】

ビデオ研修及びワークショップを実施して、ハラスメント防止のために心がけたいこととして、いつも言われていることですが、下記の事項に注意することが大事だと思います。

- ・お互いの人格を尊重すること
- ・相手が嫌がっていることが分かったら決して同じ言動を繰り返さない
- ・被害を受けている人を見かけた場合は、声をかけて相談にのる
- ・話はあまり大きな声で話さない
- ・ビデオ監修を継続的に実施する
- ・異性の人と話すときは、言葉使いに注意する
- ・自分が嫌だと思うことは、その理由を述べる
- ・宴会等のお酒の席で、気が緩んでいるときは否定的な意見は言わない
- ・つい失言をしたときは、早い時期に謝る
- ・明るいユーモアのセンスを向上させる
- ・人から尊敬されるような思考・行動をする

以上、普段の生活・人間関係で注意して行きたいと思っています

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	小林 卓矢
【研修会の概要】 1、目的 ハラスメント研修会を実施し、ハラスメントに対する認識を深めることや、ハラスメントの根絶及び抑止力の向上のための対応について協議し意識改革の一助とする。 2、ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況の説明 3、ビデオ鑑賞「ハラスメント：職場から作る人権尊重社会」 ・パワハラ ・セクハラ ・ハラスメントがもたらす企業への悪影響 4、ワークショップ形式による検討会 （1）個人作業 ①日常生活の中で体験したハラスメントについて ②ハラスメント抑止のための対応について （2）グループ作業 ①個人作業について発表 ②抑止力を高めるための対応についてのグループ案の検討 ③グループ成果発表 5、全体討議による意見交換	

【研修会所見】

1. ビデオ鑑賞について

上司と部下の関係性の中で、適正な範囲での厳しい指導と行き過ぎた指導の線引きは確かに難しいものであると考えます。パワハラ・セクハラなどのハラスメントを防ぐためには、職場で普段からコミュニケーションを取り、適切な指導の在り方の検証や、一人一人の人権意識を高めるとともに相談体制の整備など適切な処置を講じておく必要があります、研修会などで会社全体で取り組みを行い、全体で認識を共有する体制を構築することが大切であると感じました。

また、ハラスメントによる被害で、職場環境の悪化に伴う仕事への意欲の低下や、人間関係に亀裂が生じるなどで、会社の業績悪化にもつながります。一方、一人一人が人権意識を高め、企業全体でハラスメントを許さない職場を作っていけば、従業員の能力を伸ばすことができ、企業全体の活性化や業績の向上にもつながるなど、企業にとってもハラスメント根絶の取り組みは取り入れることは優秀な人材の育成や大きな利益の創出につながると考えます。

2. ワークショップによる検討会について

複数のグループを結成してハラスメントに関する体験談や、抑止力を高めるための手段、参加者それぞれの個人的な取り組みや対応の仕方を共有することが出来たのではないかと考えます。今回の研修会のように気兼ねなく自分の経験や考えを言い合える場というのも、1つの発散の場にもなるのではないかと改めて感じたところです。

また、「とにかく笑う」、「心にカード（レッド、イエローなど、自らの抑止）」など、対応や心構えなどを知ることが出来たのは自分にとっても貴重な事であり、今回の研修会のような取り組みは極めて重要であると感じました。

令和6年7月2日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	太田 実保
【研修会の概要】 令和6年6月14日（金） 1. ハラスメント根絶委員会の検討事項の進捗状況説明 2. ハラスメントビデオ鑑賞「ハラスメント：職場から作る人権尊重社会」 3. ワークショップ形式による検討会…4グループに分かれて (1) 個人作業 ① テーマ1：自分がハラスメントについて心掛けていること また、不愉快だなと感じるハラスメントについて ② テーマ2：ハラスメントの抑止力を高めるための対応（対策） (2) グループ作業 ① 個人作業について発表 ② グループ討議、グループ案作成 (3) グループ成果発表	
【研修会所見】 今回視聴したビデオは、法務省で作成しており、なぜ人権に取り組む必要があるのか、そして人権課題にはどのようなものがあるのか等について事例などからわかりやすく解説する啓発教材である。セクハラやパワハラなどのハラスメントだけではなく、不当な差別なども含んだ人権問題は、企業などのほかに、様々な場所で大人の人権教室の開催の必要性を感じた。 ワークショップでは、それぞれの属性において、これまでの経験などに差はありつつも、心掛けていることは同じで、思いやりの心を持って相手と接することが大切であると改めて認識した。また、ハラスメントの抑止力を高めるためには、研修も大切であるが、被害を受けたときに相談できる場所や、日ごろからの人間関係が重要であると思った。	

令和6年7月30日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	石井美季
【研修会の概要】 ワークショップ形式によるグループワーク ハラスメント防止に努めていること ハラスメントの要因 解決策 について意見交換をして グループごとに発表	
【研修会所見】 他会派の議員との忌憚ない話し合いの中から 人として尊敬しあう気持ちを醸成し お互いの違いを認め合う機会になり大変有意義な時間となりました。 このような機会を持つことはハラスメント防止だけでなく議員の資質向上を含め他にも効果の高い話し合いを持つことにつながるため良い経験だったと思います	

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	宮 利徳
【研修会の概要】 ・恵庭市議会ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗について ・ハラスメントビデオの鑑賞 人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」 ・ワークショップ ①自分がハラスメントについて心掛けていること、また、不愉快だと感じるハラスメントについて ②ハラスメントの抑止力を高めるための対応（対策）について ③グループごとからの発表	
【研修会所見】 今回の研修ではワークショップ形式での意見交換が行われ、それぞれの議員のハラスメントに関する認識や日頃心がけていることなどを共有でき、非常に有意義であった。その中でも自分が加害者とならないように心がけていることとして、相手の話をしっかりと聞き、丁寧な言葉遣いでお話をするといったことを心がけている議員が多く、逆に、話を聞いてくれない、勝手に決めつけて話をされる、必要以上の大声で言われるといったことに対して不快に思うといった議員が多かったことなどを考えると、普段の会話やコミュニケーションによってハラスメントが発生する可能性が十分にあるのだと再認識した。 ハラスメントを抑止する対策については、これをやれば根絶できるといった対策はないと考えており、定期的な研修などで常に自分の行動を鑑みる機会を作り続けていくことが有効であると考えている。大抵の場合、加害者は認識不足やハラスメントの自覚がない場合が多いので、どのような対策を行なっても未遂を含めた発生をゼロにすることは難しい。だからこそハラスメントが発生、またはその傾向があった場合に被害者や第三者がどのようなアクションを取れるのかといったことが重要であり、大事に至る前に組織全体として火消しを行えるような環境や仕組みづくりが必要であると考えている。議会においては期数や年齢によって注意しにくくなるといった傾向があるため、どのような対策がその課題を解決するために有効であるかといったことを今度検討する必要があると考えている。 今後もこのような研修をしっかりと実施することにより議会全体で課題解決に向け取り組んでいきたい。	

第 3 回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	柏野大介
【研修会の概要】 ・ ハラスメント根絶特別委員会の検討状況 ・ 人権啓発動画「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」の視聴 ・ ワークショップ形式による検討 「テーマ 1 ハラスメントについて心掛けていること、不愉快だと感じること」 「テーマ 2 ハラスメントの抑止力を高めるための対応」	
【研修会所見】 第 3 回目のハラスメント研修会は、これまでの講演形式、ビデオ視聴形式からワークショップ形式を取り入れたことで、大いに成果があったと感じられる。 4 グループに分かれ、世代や会派を超えた中で、それぞれが「ハラスメントについて心掛けていること」、「不愉快だと感じること」について共有を行った。 自分自身の心掛けとしては、あまり多くなかったが、他の方が日常のコミュニケーションや仕事以外の場で、心掛けていることをお聞きすることができ、自分の行動を考える上で非常に参考になった。特に、ハラスメントの発端となりうる発言などに対して、その場で解決を図るような心掛けについては、なかなか自分の行動としても実践できていないところであり、今後気をつけていきたいと思う。 私はグループ内の議論について、発表する機会をいただいたので、私見として提案した会派を超えた意見交換の場などについても、発言をさせていただいた。4 年間という任期があるとはいえ、会派などは人事異動のような入れ替わりも少なく、人間関係が固定化しやすい。私自身も 2 人しかいない会派であり、少人数の会派ほど、外部からの目が届きづらいことが想定をされる。個々人が心掛けるということだけではなく、閉じた人間関係とならないための議会全体としての仕組みも、合わせて取り入れていくことが必要だと感じる。 引き続きハラスメント特別委員会では、条例改正や抑止力を高める対応について協議を進めていくことになるので、今回の研修で学んだことを、今後の提案にも活かしていきたい。 以上	

令和 6 年 7 月 1 日

第 3 回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	新岡 知恵
【研修会の概要】 6 月 14 日、委員会室にて全議員参加のもと、人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」を視聴した。その後、4 つのグループに分かれて、①「日常生活の中で体験したハラスメント」 ②「ハラスメントの抑止力を高めるための対応」 2 つのテーマについてワークショップ形式による検討会を行い、人権尊重についての見識を深めた。	
【研修会所見】 動画は、職場で起こり得る具体的な事例をもとに、ハラスメントにあたるか否かを解説する内容となっていた。職場においては、職務遂行において避けられない適切な指導と、ハラスメントとは明確な違いがあることに留意すべきだと改めて理解することができた。 視聴後には、グループ内でテーマに沿って意見交換をし、様々な意見が出た。その活動を通して、自分が考える「ハラスメント」だけではないという気付きがあり、ワークショップ形式での研修の効果を実感することができた。性別や年齢、議員であれば経験の違いによって、ハラスメントの捉え方が違うかもしれないが、その違いをコミュニティで共有したうえで、どうしたらハラスメントをなくすことができるのかについても、一緒に考える機会を持つことができたことは有意義であったと感じる。 なにより、日頃からのコミュニケーションをしっかりと取りながら、相手の立場に立った言動に気をつけていきたいと思う。	

令和6年6月17日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	武藤 光一
【研修会の概要】 1 ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況について報告 2 ハラスメントビデオ鑑賞 人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」 3 ワークショップ形式による検討会 4 グループに分かれて、テーマ1「自分がハラスメントについて心掛けて いる事について、また、不愉快だなと感じるハラスメントについて」、 テーマ2「ハラスメントの抑止力を高めるための対応」についてグループ討議し、 グループごとに成果発表 4 全体討議による意見交換	
【研修会所見】 ハラスメントの抑止力を高めるには 1, 酒を無理に進めないこと 2, 相手の体に触れないこと 3, 大声で怒鳴ったり、机をたたいたりしないこと 4, 自分がされて嫌なことは、相手にもしないこと 5, 厳しい罰則が必要なこともあるので、対応を備える ハラスメント研修を受けて、感じたことを報告します。	

令和6年7月2日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	澁谷敏明
【研修会の概要】 この度の研修会は、パワハラ行為のビデオ鑑賞と4つのグループに分かれてのワークショップを実施しました。 ビデオでは、昔は、よく見られたような行為と感じましたが、随所にハラスメント行為が見られ、被害者に与える影響は大きく組織的にもマイナス面しかないものだと感じました。 ワークショップでは、「自分がハラスメントについて心掛けていること。また、不愉快と感じるハラスメントについて」と「ハラスメントの抑止力を高めるための対応（対策）について」をテーマに話し合いました。 ワークショップの中では、「コミュニケーション」「笑顔」「言葉づかい」「大きな声で話さない」などの意見が多く出されました。 誰もがわかっていても、なぜ起こってしまうか考えますが、多くの意見が出されていた頃からのコミュニケーション不足が要因の一つと考えます。コミュニケーションを図っていれば、相手の気持ちも理解できるだろうし、接し方もおのずと出来るものだと思います。 自分も改めて「コミュニケーション」「笑顔」「言葉づかい」「大きな声で話さない」など気を付けながら仕事に取り組もうと思いました。	
【研修会所見】	

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	ハラスメント根絶特別委員会委員長 前田 孝雄
【研修会の概要】 第3回ハラスメント研修会を実施し、様々なハラスメントに対する認識を深めるとともに、ハラスメント根絶への抑止力を高めるための対応について討議し、意識変革への一助とすることを目的に、議員21名全員で4個グループによるワークショップ形式による研修会を実施した。 冒頭、委員長として昨年10月にハラスメント根絶特別委員会が発足し、次の6項目の検討事項についての進捗状況について説明した。 (1) 恵庭市議会ハラスメント根絶条例の見直しについて (2) ハラスメント根絶条例における行動指針について (3) ハラスメント研修と意識変革について (4) ハラスメントの抑止力を高めるための対応について (5) 職員・議員に対する相談窓口の設置について (6) ハラスメント事案が生じた場合の対応協議について 次に16分間の人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」を鑑賞し、様々なハラスメントの実態をイメージアップした後に、今回のテーマとして「ハラスメントの抑止力を高めるための対応について」を個人作業、グループ討議で活発にディスカッションし、グループ発表をして成果を確認し、初期の目的を達成できたものと考えている。	
【研修会所見】 ワークショップ形式の研修会は、初めての試みであったが党や会派を超えて自由闊達な意見・討論がなされ成果が有ったものと確信する。 1 成果が有った事項 ① 5名～6名のグループを編成し、個人作業としてテーマ1：自分がハラスメントについて心掛けている事について発表させ、ハラスメントに関する個人の意識をそれぞれ把握できたものと思料する。 ② グループ討議では、テーマ2：ハラスメントの抑止力を高めるための対応について討議し、参画意識が高められた。 2 改善を要する事項 ① 時間で区切る余りテーマ1が余裕のない時間となった。 ② 全体討議では、もう少し多くの議員の話を聞く機会を作るべきだった。 この手法は、議員21名のコミュニケーションを図るのに有効であり、今後も様々な検討会に機会を捉えて、この手法を取り入れることは有意義であると考えている。	

令和6年7月10日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	市川愼二
【研修会の概要】 1, ハラスメントにおける検討事項と進捗状況について 2, ハラスメントの人権啓発に係るビデオ鑑賞 3, ワークショップによる検討会（グループ編成） 4, グループの成果発表及び意見交換会	
【研修会所見】 この度の研修は、ワークショップのグループにより、テーマを掲げ、討議をし成果発表を行いました。特に、自分の思いばかりではなく、様々なご意見があり、ハラスメントでの心掛け、抑止力を高めるための対応等では、視点の違いにより、気付きの点が多く、認識を深めることができたのではないかと思います。また、社会的な環境の変化を捉え、継続的な研修により、議員自らの意識改革を高めることも、必要と考えます。 今後とも、議員としての態度・行動を常に見つめ直すとともに、対相手の心情をしっかり受け止め、それぞれの場面では、感情に流されず、冷静沈着に対応ができるよう努めて参ります。	

令和6年7月11日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	小橋 薫
【研修会の概要】 1. ビデオ研修 2. ワークショップ	
【研修会所見】 1. ビデオ鑑賞研修に於いては、典型的な民間会社でのハラスメント事例である。又、昭和時代では当たり前だったと思うが、時代の経過や環境、教育、様々な背景が変わった現代においては改めて自分改革が必要と感ずるところである。 2. ワークショップでの各自の意見はもつともである。それぞれの人生背景が異なることにより、捉え方や受け止め方はさまざまであることが理解できたところである。今後は、自分自身が相手の考えている事や受け止め方を十分に理解した上での発言、行動が必要である。何人に対しても常に配慮を重んじての行動言動が求められると感じている。	

令和6年6月17日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	川股洋一
【研修会の概要】 1. 目的 第3回ハラスメント研修会を実施し、様々なハラスメントに対する認を含めると共に、ハラスメント根絶へ抑止力を高めるための対応について討議し、意識改革への一助とする。 2. 令和6年6月14日（金）15：00 から 3. ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況説明 (1) ハラスメント根絶条例の見直しについて (2) ハラスメント根絶条例における行動指針について (3) ハラスメント研修と意識改革について (4) ハラスメントの抑止力を高めるための対応について (5) 職員、議員に対する相談窓口の設置について (6) ハラスメント事案が生じた場合の対応協議について 4. ハラスメント人権啓発ビデオの鑑賞 5, グループワークショップ形式による討議会 (1) 付箋紙による個人テーマ作業 (2) グループ討議 (3) 各グループ発表 5, 全体討議による意見交換 上記の内容で順次討論が盛会に行われました。	

【研修会所見】

議員におけるパワーハラスメントは、職員及び議員に対する不適切な行動や態度を指します。これは、権力や地位を持つ人々が、他の労働者に対して威圧的な態度を取ったり、仕事に影響を与えたりすることを意味します。

パワーハラスメントの形態は多様であり、直接的なものから間接的なものまでさまざまです。主な形態には以下のようなものがあります。

1. 言葉や行動による嫌がらせ：パワーハラスメントの最も一般的な形態であり、威圧的な言葉や侮辱、冗談の対象にされたり、脅されたりすることが含まれます。
2. 地位や役職を利用した権力の乱用：上司や管理職が、地位や権限を利用して部下を不当に扱うこともあります。たとえば、仕事の割り当てや昇進の機会を不公平に操作するなど。
3. 機密情報の濫用や妨害：上司や同僚が重要な情報を隠したり、故意に情報を共有しなかったりすることにより、他の労働者の仕事に影響を与えることもあります。
4. 社会的孤立：パワーハラスメントの一形態として、労働者を仲間外れにしたり、無視したりすることがあります。これにより、被害者は対話や協力の機会を失い、仕事の品質やパフォーマンスが低下する可能性があります。

パワーハラスメントの影響は大きく、被害者のメンタルヘルスや身体的健康に悪影響を及ぼす可能性があります。また、仕事へのモチベーションやパフォーマンスにも悪影響を与え、全体的な組織の雰囲気や効率性にも悪影響を及ぼす場合があります。

議会は、パワーハラスメントを防ぐために以下のような取り組みを行うことが重要です。

1. 問題の認識と意識向上：議員は、職員及び議員に対してパワーハラスメントの定義や影響について教育することで、問題の認識と意識を高める必要があります。

2. ポリシーや手順の策定：組織は、パワーハラスメント防止のためのポリシーや手順を策定することが重要です。これには、被害者が報告できる匿名の報告メカニズムや、違反者への厳しい処罰に関する明確なガイドラインを含めることが必要です。

3. 反省や修正の機会の提供：議会は、パワーハラスメントを行ったとされる者に対して、反省や修正の機会を提供することも重要です。これにより、違反者も自らの行動を反省し、改善に向けた取り組みができる場を提供します。

4. 労働者のサポート：組織は、被害者が安全に報告を行える環境を作り出す必要があります。被害者へのサポート体制やカウンセリングの提供など、適切な対応策を講じることが重要です。

以上の事項は前回でも触れましたが、やはり重要なのは、自分にハラスメント的な言葉や態度はあり得ないと思っている自身の認識の無さと、長年の風習が問題であると考えております。昭和生まれの自分自身は、普通と考えていても平成、令和生まれの方々には理解出来ない事が多く存在する事が課題です。

コミュニケーションを大切にするとあまり言葉や行動を選んでいると、ぎこちなくなります。同じ態度や言葉でも受け取る方との人間関係の深さにより変化するものと考えます。良策は考えつきませんが様々な事例を研修し自分自身を振り返る研修としたいと思います。

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	松島 緑
-------	------

【研修会の概要】

- 1、 ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況について
- 2、 ハラスメントビデオ鑑賞
 - ・ 人権啓発ビデオ『ハラスメント職場から作る人権尊重社会』
- 3、 ワークショップ形式による検討会
- 4、 全体討議による意見交換

【研修会所見】

ハラスメント研修ビデオについては、人権尊重社会について学びました。日頃どのような言動がハラスメントに当たるのか、現場に遭遇した時の適切な対応はどの様にするべきなのか改めて考えさせられました。それぞれ異なる人格を尊重し、一人一人の人権を守り。働きやすい職場環境づくりとはどの様に心がけるべきなのかを学び。

また、今回初の試みとして4グループに分かれてワークショップを行い、日頃ハラスメントにならない為に個々が気を付けている事。また、ハラスメントに感じる行為、今後ハラスメントを無くす為の取り組み等、其々個々の意見をループ毎に意見を述べ合い、グループとして意見をまとめ発表を行った。

会派も期別も異なる中で、グループでの意見交換では和気あいあいと、ハラスメントについて意見を率直に述べ合う事が出来たのではないかと感じました。

日頃、期別や会派を超えて意見を交換する機会が中々無い中、ハラスメント研修動画視聴後、ワークショップを行った事で忌憚なく意見を発言し、どのグループも活発に意見を出し合う事が出来たのが大きな成果ではないかと思いました。

今回の個々の意見が今後ハラスメント根絶特別委員会としての今後の研修に反映できればと思います。

研修会に参加するたび、改めて自分の言動・行動について、相手の立場になり考え意見を伝える。また、行動する事が重要である事。毎回の研修会がマンネリ化しないように、実りある研修となる事を心掛けていきたいと思います。

令和6年7月2日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	生本 富士代
【研修会の概要】 ・ 目的 ハラスメント根絶の抑止力を高めるため討議し意識変化への一助とする。 ・ 研修内容 ① ハラスメント根絶特別委員会からの進捗状況の説明を受ける。 ② 人権啓発ビデオ「職場からつくる人権尊重社会」を鑑賞。 ③ ワークショップ形式による検討会 テーマ1: 日常生活の中で体験したハラスメントについて テーマ2: ハラスメントの抑止力を高めるための対応について ④ グループ成果発表	
【研修会所見】 今回の研修会は、より効果的で、ハラスメント問題を議員全員で掘り下げる ことのできた有意義な内容であったと実感するものであった。 今までは、ハラスメントに関するビデオ鑑賞のみであったり、有識者からの 講義を受けたりと、一方的に受ける研修内容であったが、今回は双方向のやり 取りができ、議員同士のコミュニケーションの構築も図れた事を実感するもの であった。 議員全員での話し合いの場を設け、情報共有ができると、人間関係もより深 まり、相手に対する尊重の気持ちが湧いてくるのではないかと考えている。 今回でハラスメントに関する研修は3回目となるが、着実に抑止力は高められ ていると私は思う。	

令和6年7月8日

第3回ハラスメント研修会 報告書

報告者氏名	野沢 宏紀
【研修会の概要】	
①ハラスメント根絶特別委員会の検討事項の進捗状況の説明について	
②人権啓発ビデオ「ハラスメント：職場からつくる人権尊重社会」の視聴	
③ワークショップ形式による検討会	
テーマ1：自分がハラスメントについて心掛けている事について、また、不愉快だと感じるハラスメントについて	
テーマ2：ハラスメントの抑止力を高めるための対応（対策）について	
【研修会所見】	
①委員長より、現在の検討状況等の説明がありました。	
②表題は「職場からつくる人権尊重社会」となっていますが、日常生活においても十分に注意をしなければならない事案があり、このビデオ視聴を通して、改めてその人権尊重の意識を重ねたところであります。	
③各議員が4グループに分かれてワークショップ形式による検討会を行いました。	
各議員がそれぞれ考えていること等をメモ用紙に書いて表示しました。	
私は、テーマ1においては、特に相手の立場になって物事を考え発言するように心掛けている等を表示。また、特に一方的な決めつけた話をされることは如何なものか等を表示しました。その他にも何点か表示させていただきました。	
テーマ2においては、特にお互いの立場を良く理解すること、ハラスメント研修を適切に受講し意識を絶やさないこと、相談できる人を多く作る等を表示しました。	
今回のワークショップでは、各議員がどの様に考えているのか、等を知ることができました。また、グループでの話の中では、特に、ハラスメントに遭遇した場合の対応として、相手が先輩であったり年上であった場合やその場の雰囲気において直ぐに指摘できなかつたりすることがない様に、レッドカード、イエローカード等を表示する事で、その意思を相手に伝える手段にするのはどうか、との話があり、それはひとつの手段として良いのではないかと感じました。	
今回、ワークショップ形式で様々に議論することで、普段意識していない気づきを得られることができました。やはり、議員だけに限らず、様々な方々とコミュニケーションを重ねていくことが重要である、とも改めて感じました。その様な観点からも、大変に有意義な研修会となりました。	